



## 第6回講座

「コミュニティ・オーガナイズングとは  
共感を広げ 仲間を集めるストーリー」

日時：10月21日（火）18:30~21:00

会場：なは市民活動支援センター  
会議室①

参加：受講生25名・チアーズ7名



なは市民協働大学院の第6回講座が10月21日に開催され、コミュニティ・オーガナイズングをテーマに、“共感を広げることから始まる地域の力”を学びました。

チームごとの中間発表を経て、次のステップとして「どうやって仲間を増やし、思いを伝えていくか」に挑戦する受講生たち。その鍵は「ストーリーを語る力」です。

今回の講師はチアーズでもある安谷屋貴子さん。「自分たちだけでは実現できない企画を、どうすれば“仲間になってほしい人”に伝え、心を動かせるのか。今日は“ストーリー”を使ってそれを考えます。」

参加者はワークシートを手に、自分たちの思いを「語る」練習に取り組みました。

### コミュニティ・オーガナイズングとは？

「一人では達成できないことを、同じ思いを持つ仲間とつながり、行動を通して実現する方法」

アメリカの公民権運動などから生まれた考え方で、その中

心にあるのが「ストーリー＝語り合う力」です。

### 「スイミー」に学ぶ、つながる力

絵本『スイミー』（著：レオ・レオニ）を例に、仲間を小さな黒い魚スイミーが、他の小さな赤い魚たちと力を合

わせ“大きな魚のふり”をして泳ぐ物語を紹介。



「違いを尊重し、生かしながら

ら、大きな力を生み出す。これこそがコミュニティ・オーガナイズングの本質です。」

## 前年度受講生・古澤さんによる実践報告

古澤さんは、小祿地区の地域課題の解決方法として「6年前の町内の夏祭り」を思い出しました。当時は医療的ケアが必要な子どもを抱え、地域との交流がほとんどなかったといいます。

大学院の活動を通じて自治会・PTAメンバーと「オープンチャット」を立ち上げ、緊急時の情報共有に活用。津波警報や行方不明者対応にも役立っています。

また、大学院でのまち歩きで、夏祭りの主催が町自治会だと知り加入。総会で「夏祭り復活」を提案し、若手不足の中でも自治会・PTAと協働で開催を実現。幅広い世代が参加し、地域のつながりを再確認する場となりました。



古澤さんは「成功も失敗も含めて地域の皆さんと見て、学んで、自分たちの地域に持ち帰ってほしい」と呼びかけました。

## 「ストーリー」が心を動かす理由

ストーリーは単なる説明ではなく、自分の体験や感情を通して語ることで、相手の心に“共感の火”を灯します。

コミュニティ・オーガナイズングでのストーリー（パブリック・ナラティブ）は、以下の3つで構成されます。

- 1.ストーリー・オブ・セルフ（自分の物語）：なぜ私に関わるのかを語る。
- 2.ストーリー・オブ・アス（私たちの物語）：共通の経験や希望を語り、仲間意識を育む。
- 3.ストーリー・オブ・ナウ（今の物語）：なぜ今行動するのか、緊急性と方向性を示す。



## 感情が人を動かす

「行動の原動力になるのは理屈ではなく“感情”」。怒りや希望、悲しみを共有することで相手と価値観をつなぎ、行動を促します。

「自分の経験を語ることで、相手の心の“種火”に火をともし。それがストーリーの力です。」

## 自分のストーリーを語ってみよう

後半ではチームに分かれ、作ったストーリーを順番に語り合い、聞いた感想や心の動きを共有。

各チーム代表が全体に向けて発表し、「共感が共感を呼ぶ」瞬間を体感しました。



## 「ストーリーは行動のはじまり」

コミュニティ・オーガナイズングは特別なリーダーだけでなく、「思いを言葉にし、仲間と共有すること」から始まります。

ストーリーを語ることは、行動の第一歩。あなたの思いが誰かを動かすかもしれません。企画の新たなアクションのきっかけとなる時間となったと期待しています。

### 自主ゼミ

12月2日(火)  
18:30~21:00

### 第8回講座（最終回）

12月13日(土)  
18:30~21:00

なは市民活動支援センター 2階